

erudio

Iwate University : Center for Teaching, Learning and Career Development

国立大学法人 岩手大学 教育推進機構通信

Contents

- 2 教育推進機構長から
- 3 機構会議
- 4 教養教育センター
- 6 グローバル教育センター
- 8 教育推進連携部門
- 10 学生支援部門
- 12 キャリア支援部門
- 14 入学前教育実施小委員会
- 15 学修支援体制の整備に関する専門委員会
- 16 学修支援室
- 17 I^o Folio (アイフォリオ)
- 18 機構会議、センター会議及部門会議名簿

教育推進機構長から



まるやま ひとし

丸山 仁

岩手大学教育推進機構 機構長
理事（教育・学生担当）・副学長

いよいよ岩手大学に「グローバルビレッジ」、「地域に開かれた多言語多文化交流空間」がオープンしました（28年4月から活動開始）。今後グローバルビレッジでは、「地域に顕在化した諸課題をグローバルな視点から解決し発信できる人材の育成」（中期目標14）を目指して、英語などの外国語支援、多文化理解促進イベント、地域で活躍するグローバル人材による講演、地域コミュニティとの国際交流活動など、多彩な事業を実施していく予定です。本学の学生にとっては、様々なイベントを通じて、また留学生、留学体験のある学生との交流を通じて、「大学にいながらにしてグローバルな体験ができる空間」が誕生したことになります。

12月にはグローバルビレッジの開所記念イベントが開催されたのですが、栄えあるゲストスピーカーに選ばれたのは誰でしょうか。「グローバル」を標榜するからには、海外の有名な研究者、あるいは長い間海外で研究していた本学の教員、それとも外交官、はたまた海外で活躍する岩手大学出身のビジネスパーソンでしょうか。そうではありません。答えは、南部美人（二戸市）の5代目蔵元・社長の久慈浩介さん。久慈さんは、全国公開された映画にも出演された、知る人ぞ知る地元の名士です。映画のタイトルは「カンパイ！ー世界が恋する日本酒ー」。もちろん私も夫婦で鑑賞しました（偶然同じくご夫婦で居合わせたのが国際課の若手職員さんでした）。映画のチラシには、ブロンドの美しい女性に笑顔で日本酒を薦めている久慈さんの姿があります。名づけて「世界を股にかけの蔵元」。グローバルビレッジにお招きした理由がお分かりになったでしょうか。

第3期の中期目標・中期計画期間に岩手大学が目指すのは、「グローバル（グローバル×ローカル）な大学」、「地域に根ざし、世界に羽ばたく大学」です。この「グローバル」には二つのベクトルが含まれています。一つは、グローバルな視野を持って、ローカルに活躍すること。今真剣に地域の伝統的な産業、日本酒でも南部鉄器でも、あるいは老舗旅館などもそうですが、地域の産業を元気にしたいと本気で考えるなら、世界と

いうマーケットを相手にする必要があります。ですからグローバルな視野をもって、地域で活躍することになるわけです。そして例えば日本酒の魅力を正しく海外に伝えるためには、日本酒の歴史や伝統、特色をしっかり勉強しなければなりません。さらにその美味しさの秘訣を本当に知り、説明するためには、米、水、酵母に関して、また製造法に関してもじっくり研究する必要がありますでしょう。ですから、グローバルのもう一つの意味は、地域に根ざしながら、そこで得た経験、知見、研究成果を世界に発信するということです。久慈さんの活躍は、まさにこの2つのベクトルを体現するものといえるでしょう。

ここ岩手大学には、平泉文化研究センターと地域防災研究センターがあります。岩手大学は、世界に通じる地域の文化（平泉文化）に根ざして、また世界に衝撃を与えた3.11の大震災、津波を経験した地域に根ざして、日々研究を積み重ね、その研究成果を広く世界に発信していくことが期待されています。そしてその研究成果は、例えば29年度に正式開講される（28年度までは別の科目名で試行）PBL型の教養教育科目、「地域課題演習」の内の「地域安全・防災型」（地域防災研究センター担当）、「文化保存・継承型」（平泉文化研究センター担当）を通じて、本学の教育、グローバル人材育成にも活かされることになります。

「地域に顕在化した諸課題をグローバルな視点から解決し発信できる人材」は、本学のCOC事業が目指す「いわて協創人材」（地域の歴史・文化・特色を理解し、異分野の専門家と協働し、自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる人材）、またCOC＋事業が目指す「いわて創造人材」（4つの能力、①いわてを知り、理解する力、②いわてを説明する力、③いわてをつなぐ力、④いわての未来を創造する力を備えた人材）にも通じています。教育推進機構を中心に、岩手大学の総力をあげて、グローバルな人材として地域を先導する人材、また世界に羽ばたく人材を育てていきましょう。皆様のご協力、ご支援をお願いします。

機構会議

教育推進機構長 丸山 仁

キャリア教育の具現化について

昨年度の機構会議(第10回)において、岩手大学のキャリア教育の方針が以下のように定められました。「岩手大学におけるキャリア教育は、将来設計を考える際に必要な知識と主体的に進路を選択する能力を、教養教育から専門教育までの正課内教育並びに正課外教育により身につけさせるものとする」。第5回の機構会議において、キャリア支援部門会議から、「キャリア教育方針に基づくキャリア教育の具現化(案)」が示され、審議の上了承されました。今後他のセンター、部門とも連携しながら、「教養教育」、「(企業見学等を通じた)低年次より専門教育へのつなぎ」、「正課外」、「(インターンシップを活用した)正課内—外教育のつなぎ」、「キャリア形成支援全体」の各区分ごとに、順次キャリア教育の充実を進めていきます。

教育推進機構会議規則の一部改正について

第6回の機構会議において、教育推進機構会議規則の一部改正を行いました。大学教育総合センター時代に確認した申し合わせに準拠して、従来から「専任教員の人事に関する議事」に関しては、出席した委員の3分の2以上の賛成をもって決することとしていました。本改正は、教育研究施設長等会議において示された統一方針に基づき、このルールを改めて教育推進機構会議規則において明文化したものです。

平成29年度学年暦について

教育推進連携部門会議からの提案に基づき、第6回及び第7回の機構会議において、平成29年度の学年暦を審議の上了承しました。本学年暦は、「柔軟化した学事暦の運用を試行的に進める」という年度計画に基づき、本格的な4ターム制導入を視野に入れて、今年度と同様に「16回(8回+8回)」の授業日を確保するものです。今年度の学年暦には、教育学部のみにも適用される「補講期間(授業なし)」と「追加期間(授業あり)」が設定されていましたが、29年度は全学統一の学年暦となります。本件は、その後開催された第153回の教育研究評議会において、審議の上決定されました。

専任教員の再々任審査について

第4回の機構会議において、再任・再々任規定が適用される専任教員1名に関して、「再々任審査を必要とする特別な事情」(機構長が発議し、学長が了承)について確認した上で、「再任審査要項」を審議の上で決定しました。第5回の機構会議において、再任審査専門委員会を設置すると共に、本審査は教育業績、実務上の業績、研究業績、大学運営上の業績の4項目で行う(社会への貢献に関しては対象としない)ことが、審議の上了承されました。

第8回の機構会議において、再任審査専門委員会から提出された「再任審査専門委員会報告」及び「再任審査書(案)」に基づき慎重に審議した結果、機構会議として原案通り「再任審査書」を了承し、「再任審査報告書」に機構会議で了承された「再任審査書」と「再任審査専門委員会報告」を付して学長に提出することになりました。

岩手大学釜石学生宿舍規則の制定について

第7回の機構会議において、学生支援部門会議から提案があった「岩手大学釜石学生宿舍規則」が、審議の上了承されました。本学生宿舍は、28年度の全学改組の一環として、本学農学部食料生産環境学科に「水産システム学」コースが設置されたことに伴い、釜石サテライトで学ぶ学生(3年次後期から)・院生向けに提供されるものです。なお本規則は、岩手大学学生寮規則がベースとなっています。

教員公募及び採用時の科目委員会所属について

第8回の機構会議において、教養教育センター会議から提案された「教員公募及び採用時の科目委員会所属について(教養教育関係)(依頼)」を審議の上で了承しました。これは平成20年に当時の教育推進本部会議で了承された同様の取り決めを、教養教育の新カリキュラム開始(平成28年度～)を踏まえて見直す(「全学共通教育」から「教養教育」へ、教員が所属する組織は「分科会」から「科目委員会」へ)ものですが、同時に改めて各学部の教員、特に新任教員に、「科目委員会への所属」と(同委員会の調整を踏まえて)「教養教育科目の担当」を促す狙いがあります。部局長会議においても報告し、各学部長にも協力を依頼することになりました。

教養教育センター

専任教員 織田 健志

教養教育科目授業公開

平成28年5月30日～6月3日(前期)、及び11月7日～11月11日(後期)の間、教養教育科目の授業を公開する「授業公開」を行いました。この授業公開には、教養教育科目に限らず、学部で開講されている専門教育科目のいくつかの科目も対象科目として加わっています。今年度は、前期84名・後期78名(延べ人数)が観覧されました。

専任教員 脇野 博

基礎ゼミナール「震災復興に関する学修」説明会

平成29年2月20日、平成29年度基礎ゼミナール担当教員を主対象とする「震災復興に関する学修」説明会を実施し、28名の基礎ゼミ担当教員を含む30数名の教職員が出席しました。説明会では、本年度実施した「震災復興に関する学修」の取組紹介、教養教育センター教員とCOC推進室員による震災復興に関する学修のガイドラインと訪問先コースプラン等の説明を行いました。

人文社会科学部の音喜多信博准教授、教育学部の室井麗子准教授、理工学部の齊藤貢准教授、農学部の石村学志准教授による取組発表では、事前・事後学修の工夫、「震災復興に関する学修」を組み込んだ基礎ゼミプログラムの企画・実施、さらに参加した学生の気づき・発見や感想など、多彩な取組の内容が紹介されました。また情報交流では、出席者から質問や提言が活発に出され、「震災復興に関する学修」の今後の改善に向けた多くのアドバイスや示唆を得ることができました。



「震災復興に関する学修」説明会の様子

「地域課題演習A～H」の平成29年度開講準備

平成28年度入学生が2年次から履修できる「地域課題演習A～H」が、平成29年度からからいよいよ本格開講されます。「地域課題演習A～H」については、これまで平成27年度、28年度の2ヶ年度にわたり旧カリキュラムの科目を代替して試行で開講してきましたが、来る4月から本格実施することになりました。

昨年11月7日に開催した「地域課題演習懇談会」以降、連携する全学教育研究施設等の学内組織に携わる先生方の精力的な準備により、平成28年度は試行で7科目開講した「地域課題演習A～H」は、来年度は12科目開講と大幅に充実することになりました。

また、多くの学生に履修してもらいたいため、下記の案内を1年次学生などに配布して周知を図っています。

**教養教育科目(地域関連科目)
「地域課題演習A～H」の開講について**

教養教育では平成29年度から、地域社会にある具体的な課題の解決に向けて、実践的な活動に結びつけるための考え方・方法を学び、課題解決に必要な思考力・判断力を養うことを目的に「地域課題演習A～H」を開講します。

地域の課題に実践的に、しかも他学部の学生と一緒に取り組むことができる授業です。受講を希望する場合は、今後提示される履修募集を見て、申し込んでください。

対象年次	: 2年次以上対象
区分	: 教養教育科目(地域関連科目)
単位数	: 2単位
授業の目的	: 学生同士、教員との討論を通して現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を自ら培うことを主目的とします。
その他	: グループワークを行い、実習にも出かけるため、人数制限を行う場合があります。

事業所体験型

【ジョブシャドウ型PBL演習(地域課題演習H)】

国際型 with 留学生

【国際研修 in 岩手(地域課題演習F)】
三陸ジオパーク・被災地復興視察研修

田老漁港・防波堤の視察

他にもさまざまなテーマの科目があります。
詳しくは裏面の科目一覧をご覧ください。

教養教育センター

専任教員 富永 陽子

学生による授業アンケート

教養教育センターでは教養教育(全学共通教育)科目について、学生による「授業アンケート」を実施しています。全開講科目を対象とした授業アンケートは2年に1回行われ、平成28年度前期は261科目について実施しました。得られた結果は授業を担当した教員に返却するほか、教養教育センター会議で作成した基準

に従って授業科目区分ごとに「教養教育科目優秀授業」を選出しています。

平成28年度前期に選出された優秀授業は以下の通りです。44科目を担当する36名の教員が選出されました。

平成29年2月1日には平成28年度前期教養教育科目優秀授業の表彰状授与式を行いました。

平成28年度前期 学生による授業アンケートに基づく全学共通教育優秀授業科目一覧

外国語科目(英語総合)

0317	英語総合I(上級)	Hareyama James Franciscus
0319	英語総合I(中級)	佐藤 智子
0320	英語総合I(中級)	伊東 栄志郎
0321	英語総合I(初級)	William Oscar Lewis IV
0350	英語総合I(上級)	SMILEY Jim
0352	英語総合I(上級)	三浦 勲夫
0358	英語総合I(中級)	佐藤 信幸

外国語科目(英語コミュニケーション)

0325	英語コミュニケーションI(中級)	Ishikawa Peggy Marrie
0326	英語コミュニケーションI(中級)	Asano Robert Ken
0327	英語コミュニケーションI(初級)	Hareyama James Franciscus
0349	英語コミュニケーションII(初級)	Hareyama James Franciscus
0368	英語コミュニケーションI(中級)	Blair Benjamin Reed
0370	英語コミュニケーションI(中級)	Asano Robert Ken
0371	英語コミュニケーションI(中級)	Hareyama James Franciscus
0374	英語コミュニケーションI(初級)	William Oscar Lewis IV

外国語科目(英語以外)

0423	初級フランス語(入門)	横井 雅明
0445	初級ロシア語(入門)	堀口 大樹
0447	初級ロシア語(発展)	増田 エレーナ
0451	初級中国語(入門)	呉 慧敏
0452	初級中国語(入門)	西田 文信
0470	上級日本語A	松岡 洋子
0472	上級日本語C	Anders Carlqvist

健康・スポーツ科目

02015	バスケットボール	岩井 恵理
02022	バドミントン	井上 一彦
02025	サッカー	森川 龍誠
02044	テニス	本多 好郎
02053	テニス	吉田 実理
02055	バスケットボール	岩井 恵理

情報

0257	情報基礎	松館 敦子
0258	情報基礎	宮川 洋一
0259	情報基礎	松館 敦子
0269	情報基礎	三好 扶

文化

0002	心の理解	奥野 雅子
0003	心の理解	早坂 浩志
0017	芸術の世界	煤孫 康二
0019	大学の歴史と現在	大川 一毅

社会

0033	憲法	菊地 洋
0040	対人関係の心理学	川原 正広
0043	現代の諸問題	尾中 夏美
0052	多文化コミュニケーションA	松岡 洋子
0053	キャリアを考える	脇野 博

自然&科学技術

0059	生命のしくみ	山田 美鈴
0060	自然と数理	川崎 秀二
0065	自然と法則	河田 裕樹



グローバル教育センター

センター長 藪 敏裕

国際交流関係データ 平成28年下半年

- 岩手大学留学生数(平成28年11月1日現在)
25ヶ国1地域から計213名(含連合農学研究科)
- 交流協定(平成28年10月1日現在)
大学間交流協定 23本
部局間交流協定 33本
- 岩手大学生の海外派遣実績(28年4月～29年3月)
短期留学 137人、交換留学 14人

留学生のためのイベント

- フィールドスタディ スキー in 安比
母国で経験することの少ないスキーや雪遊び体験を通じて、岩手の冬に親しむイベントです。平成29年2月11日(土)～2月12日(日)の日程で、安比高原スキー場で行われました。インストラクターの先生からの指導のもとスキー技術を習得し、また参加者同士の交流も深めることができて充実した研修となりました。



フィールドスタディ スキー in 安比

- 三陸ジオパーク・被災地復興視察研修(地域課題演習F)
被災後の三陸地域を見学し、被災地と観光について考える研修を平成29年2月22日(水)～2月23日(木)に開催しました。1泊2日の行程とし、久慈市・田野畑村・宮古市を視察しました。日本人の学生と一緒に、被災地における観光客増大に向けたアイデアを検討するグループワークも行うなどして、充実した研修となりました。



三陸ジオパーク・被災地復興視察研修

○市民との交流

出身国の文化について紹介したり、日本の文化を教えてもらったり等、地域の人たちと交流する機会を持っています。平成28年11月20日(日)には、岩手県国際交流協会が開催した「ワンワールドフェスタ」に多数の留学生が参加し、民族舞踊や演奏の披露、各国文化の紹介を行いました。

学生の留学・国際交流サポート

○国際教育プログラムの充実

フィリピンのデ・ラ・サル大学での英語の語学研修プログラムを平成28年度も継続して実施し、人社・農学部・教育学部から10名の学生を派遣しました。

○「SCIP」短期研修プログラム

「エネルギーと持続可能な社会」をテーマとした短期の海外派遣プログラムで、9月にアイスランド、スウェーデンで見てきたエネルギー事情や、現地で経験した様々な交流について、報告を行いました。このほか、フィリピンにおいて「貧困」、イタリアにおいて「工芸」をテーマとする研修を実施しました。

○トビタテ留学JAPAN

平成26年度から始まった官民協働による海外留学支援制度で、これまでに8名が採択されており、すでに第7期(平成29年度後期)の募集も始まっています。学生向けの説明会やワークショップを開催し、留学経験者の体験発表などを行い、参加を促しました。

○Iwate University Gloval Village

平成28年12月12日(月)にGloval Village(英語などの多言語学習支援、多文化理解促進イベント等を実施する多言語多文化交流空間)の開所記念行事を実施し、取り組み紹介・見学ツアー、地元企業の社長によるグローバル展開についての講演会を実施しました。

○留学相談・オリエンテーション・帰国報告会

個別留学相談、留学オリエンテーション及び帰国者による座談会等を行うなどして、海外体験情報の提供を行っています。平成28年11月1日(火)～11月30日(水)の日程で開催された、岩手大学国際月間のなかで、海外留学・派遣プログラムの展示発表等も行いました。

グローバル教育センター

専任教員 平井 華代

グローバル教育センターでは「地域に顕在化した諸課題をグローバルな視点から解決し発信できる人材の育成」を推進しており、そのための場として、2016年4月、学生センターB棟1階に、多文化多言語交流空間グローバルビレッジを開設しました。グローバルビレッジでは、国際経験豊かな常駐教員のブラネン・ウィリアム先生(右記に先生よりご挨拶文があります。)を中心に、英語学修支援や、日本人学生と留学生が参加する国際交流・異文化理解のイベント・ワークショップなど、楽しく・ためになる活動を展開中です。岩手大学にいながら、海外や地域とのつながりを知り、体感できる空間です。学生ひとりひとりの世界が広がることを応援しております。詳しくは下記リンクやQRコードからアクセスしてご覧ください。

《岩手大学 国際交流ホームページ》

<http://iuc.iwate-u.ac.jp/>

《Facebook》<https://www.facebook.com/intl.iu>



グローバルビレッジ・英語発音ワークショップの様子



ごあいさつ

William Brannen

(ブラネン・ウィリアム)

グローバルビレッジ常駐
(特任助教)

Warm greetings, my name is William Brannen and I am a newly hired Specially Appointed Assistant Professor at the Global Education Center. I started working at Iwate University in September, 2016.

My educational and professional background is two-fold—art and design, and English language (application and pedagogy). I have studied and worked in these fields in USA, UK, UAE, and Japan.

Much of what I do at Iwate University involves the Global Village, where I help organize events to stimulate multilingual and intercultural exchange. I also offer individualized English language support for Japanese and international students, across all majors. My style of language education and public engagement often draws on artistic sensibilities; in my artistic expression I often incorporate linguistic themes. I feel applied linguistics and artistic expression are complementary, and conducive to fostering intercultural awareness.

I am excited to be a member of the Iwate University community, and look forward to upcoming university initiatives in the new academic year. If you would like to know more about me or the Global Education Center, please pay us a visit!



教育推進連携部門

部門長 松川 倫明

1. 平成28年度全学FD研修の実施及び学部FDの共催について

岩手大学の中期計画に学事暦の柔軟化の検討があり、理工学部や人文社会科学部において、クォーター制が試行されている。このような背景があり、クォーター制に関するFD研修を行い、教員の教育力向上を図った。以下に実施したプログラムを記載する。

○日時：2016年9月2日（金）

10：00～15：00

○場所：教育学部1号館2階 北桐ホール

午前／講演 10：10～12：00

演題 「開学20年来のクォーター制について」

講師 高知工科大学・名誉教授 坂本 明雄先生

午後／講演 1：30～3：00

演題 「クォーター制の意義と課題について」

一内部質保証システムから垣間見えてきたこと

講師 お茶の水女子大・教授 半田 智久先生

午前の講演は、高知工科大学における約20年にわたるクォーター制教育の取り組みについて、開学20年来のクォーター制の検証、8週16コマ集中学修の強みや学生・教員・職員からの声を中心に実施した。

午後の講演は、2014年度に全学導入されたクォーター制の取り組みについて、全学部・大学院での実施状況、費用対効果、多様化する教育様態への対応、学修の質と量の観点から講演していただいた。

岩手大学においても教育効果、留学機会の確保、研究専念期間の確保の観点から、クォーター制の重要性が高まっており、今回のFDのテーマは適当な設定であったと理解される。実際に、FD研修の参加者数は、

午前の部55名、午後の部40名であり、延べ100名に近い教員が出席した。

さらに、教育推進機構と学部共催のFD研修として以下の取り組みを実施した。

①農学部：2016年8月9日（火）13：00～14：30

題目「専門教育プログラムの継続的改善システムの構築」

講師：國崎農学部教員

25名出席

②理工学部：2016年9月27日（火）13：30～15：30

題目「理工系分野におけるPBL型教育の意義と課題」

講師：九州工大教授・中尾 基先生

46名出席

③教育学部：2016年11月1日（火）15：00～16：30

題目「アクティブ・ラーニングとはなにか」

講師：大学入試センター教授・山地 弘起氏

40名出席

また、出張等で参加できない教員に向けて、全学FD研修と理工学部FD研修の内容は、情報基盤センターの協力の下に、以下のアドレスに接続することにより学内限定で視聴することが可能とした。

《全学FD研修》

<https://vod.cc.iwate-u.ac.jp/auth/2016/FD/all/index.html>

《理工学部FD研修》

<https://vod.cc.iwate-u.ac.jp/auth/2016/FD/se/index.html>

2. 平成28年度専門科目におけるクォータ科目開講状況（全学36科目開講）

工学部では、平成27年度から一部の専門科目（5科



教育推進連携部門

目)をクォータ科目に変更して実施しているが、平成28年度からは、理工学部・専門基礎科目(微分積分学Ⅰ)にてクォータ科目が導入され、1単位科目を含めると27科目の授業が前期の第一・第二クォータに実施されている。文系学部の人文社会科学部でも8科目が実施されている。後期は、理工学部8科目、人文社会科学部1科目が開講されている。

学生によるアンケートの結果(微分積分学Ⅰ、習熟度別クラス編成)の一部を紹介する。短期集中型(週二回月・木または火・金開講)の授業方式により、学生による学修効果の評価は、上級・中級クラス5割～6割が肯定的な意見であった。一方、学力に不安のある初級クラスでは、4割～5割弱程度であった。履修科目間の接続の最適化や試験が分散されるなど教育効果がある反面、一部の学力不足の学生からは、授業の速さに対応できないという意見もあり、科目の内容と受講者の学力レベルによっては、従来のセメスター科目が適当な場合もあると思われる。

3. 平成28年度授業実施回数の調査について

教員の授業実施回数の確保(2単位科目・90分授業・週15回)は、学生の教室外学修時間の確保とともに、単位制の前提条件と考えられる。

平成26年度監事監査報告において、その確認の方法について検討する必要があると指摘されている。

また、クォーター制導入など学事暦の柔軟化を検討する基礎データとして、授業回数の調査結果を活用することも視野に入れている。このように単位制の実質化の検証と新たな学事暦の検討を目的として、授業実施状況の調査を実施した。

4. 平成28年度専門基礎科目懇談会の開催について

この懇談会の趣旨は専門基礎教育の連携と充実を図る目的で、担当教員と開講学部教員との意見交換会を教育推進連携部門において毎年開催してきた。今年度は、専門基礎科目の開講状況、クラスサイズ、TAの活用について意見交換を行った。また、理工学部クォーター科目の受講学生アンケート調査結果や成績評価比率の資料をもとに、短期集中型の授業方式や習熟度別クラス編成について、教育効果の観点から議論をさせていただいた。

①数学科目懇談会

日 時：12月21日(水) 16:30～18:00

場 所：学生センターB棟1階多目的室

出席者：専門基礎科目(数学)担当教員、理工学部・農学部教務関係委員、数学科目担当教員、教育推進連携部門部門委員 計11名

②物理・化学科目懇談会

日 時：2月22日(水) 16:30～18:00

場 所：学生センターA棟2階会議室

出席者：専門基礎科目(物理・化学)担当教員、理工学部・農学部教務関係委員、物理・化学科目調整担当教員、教育推進連携部門委員 計11名

5. 授業アンケートの学生へのフィードバックについて

理工学部及び農学部は、公表内容に違いがあるがホームページで公表している。人文社会科学部は、授業アンケートを行い全ての科目名を出し、点数化してアンケート項目全てをホームページへ掲載予定である。教育学部はホームページへの公表についての学部の了解は出来ているが、掲載作業はこれからの予定である。



学生支援部門

部門長 名古屋 恒彦

ガンチョンタイム

○第2回：平成28年11月28日(月)

「君の講義講義についての不満・疑問を聞きたい」をテーマに、もっと「いい講義」ってどんなものなのか、大学に意見を言える重要な機会として話し合いました。
参加者：教職員3名、学生20名、合計23名



話し合いの様子

学生支援を考える教職員FD・SD研修会

昨年度まで「学生特別支援室・学習会」及び「保健管理センター教員と担任教員との連絡会」として開催していた各学習会を統合し、教職員向けFD・SD研修として開催しました。

平成28年4月に施行された障害を理由とする差別の解消の促進に関する法律(通称：障害者差別解消法)に伴う対応及び近年の学生が抱えるメンタルヘルスの問題を中心に講演頂き、今後の本学における多様な学生に対する支援について考える機会となりました。

◎日時：平成28年12月13日(火) 15:00～16:30

◎場所：学生センターA棟 G29講義室

「障害者差別解消法に基づく
合理的配慮の提供について」

講師：学生特別支援室コーディネーター
新村 暁 専門職員

「精神面で問題を抱えている学生に対する支援について」

講師：教育推進機構・保健管理センターカウンセラー
早坂浩志 准教授

「最近の学生相談の傾向について」

講師：保健管理センターカウンセラー
立原聖子 准教授



研修会の様子

学生指導担当教職員研修会及び課外活動サークルリーダーシップセミナー

平成28年12月17日(土)に学生センターA棟を会場として、学生及び教職員がそれぞれのプログラムに参加し実施しました。

また、プログラム終了後には教職員と学生とが一堂に会して交流会を開催しました。

参加者：教職員15名 学生69名 合計84名

○課外活動サークルリーダーシップセミナーの内容：

①講演1(教職員と一緒に受講)

「私たちの身近にある暴力

～デートDVの被害をなくすために～」

岩手県男女共同参画センター長 姉帯幸子 氏

課外活動サークルリーダーシップ 学生指導担当教職員研修



講演の様子

学生支援部門

②演習とディスカッション

【コミュニケーション講座】

「～円滑なサークル運営のために～」

学務部キャリア支援課 高屋敷順子 氏



【ディスカッション】

「これからのサークル活動に向けて

～リーダーシップとサークルの運営～」

学友会中央委員会



ディスカッションの様子

○学生指導担当教職員研修会の内容：

①講演 1（学生と一緒に受講）

②講演 2

「自転車利用者に対する安全指導について」

盛岡東警察署交通課課長代理 阿部 正 氏

③討議

「学生のモラル・マナー向上への取組みについて」

進行 落合謙爾 学生支援部門副議長

学長と学生との懇談会

○第1回：平成29年2月27日（月）

各学部卒業年次及び各研究科修了年次の代表学生21名の参加を得て、テーマを「岩手大学を選んだ理由、岩手大学に入学して良かったこと、改善して欲しいこと」として開催しました。

寮生と学生指導担当教職員との懇談会

平成29年1月10日（火）に北謳・紅梅寮、1月20日（金）に自啓・同袍寮の代表者・留学生と学生指導担当教職員との懇談会を開催しました。寮行事及び自治活動への参加、自治寮として寮内で困っていること、各寮からの要望等について意見交換を行い、双方の思いが共有できた有意義な機会となりました。

Let's びぎんプロジェクト最終報告会

平成29年3月10日（金）に、平成28年度に実施したLet's びぎんプロジェクトの最終報告会を開催し、プロジェクトを実施した6件から報告がありました。

学長賞及び奨励賞を授与

平成29年3月17日（金）に今年度の学長賞と奨励賞を授与しました。

今年度は、学長賞は個人12名、団体1団体、奨励賞は個人44名、団体6団体に授与されました。団体では、岩手連合フォーミュラチームなどの課外活動サークル団体が多く選ばれました。また、個人では、今年も学会受賞者が目立ちました。



キャリア支援部門

部門長 関野 登

平成28年度下半期キャリア形成支援事業

平成28年度下半期に実施した主なキャリア形成支援事業は、次のとおりです。

- 10月：① 就職活動リスタートガイダンス
10月11日(火) 7名参加
- ② 筆記試験・SPIガイダンス
10月13日(木)～14日(金)
110名参加
- ③ 就職活動再スタートガイダンス
10月17日(月) 6名参加
- ④ 職務適性テスト受検会
10月20日(木)～21日(金)
135名参加
- ⑤ 東北地区大学間
インターンシップ事後指導
10月25日(火) 15名参加
- 11月：① 就職活動再スタートガイダンス
11月8日(火) 2名参加
- ② 東北地区大学間
インターンシップ事後指導
11月8日(火) 21名参加
- ③ 職務適性テスト結果解説会
11月10日(木)～11日(金)
95名参加
- ④ エントリーシート対策ガイダンス
11月17日(木)～18(金)
182名参加



- ⑤ キャリアカフェ (内定者編)
11月24日(木)～25日(金)
98名参加



- 12月：① エントリーシート練習記入講座
12月1日(木)～2日(金)
72名参加
- ② コミュニケーション講座
12月5日(月) 4名
- ③ 春期東北地区大学間連携
インターンシップ事前指導Ⅰ
12月7日(水)、22日(木)
21名参加
- ④ 面接対策ガイダンス
12月8日(木)～9日(金)
149名参加
- ⑤ 就職活動準備総復習ガイダンス
12月15日(木)～16日(金)
131名参加
- 1月：① 春期東北地区大学間連携
インターンシップ事前指導Ⅱ
1月18日(水) 11名参加
- ② 学生と採用者とのランチ交流会
1月18日(水)～19日(木)
7名参加
- ③ キャリアカフェ (社会人編)
1月20日(金)、26日(木)
47名参加
- ④ エントリーシート練習記入講座
1月31日(火) 34名参加
- 2月：① キャリアカフェ (内定者編)
2月2日(木) 76名参加
- ② 合同企業説明会参加対策ガイダンス
2月10日(金)、15日(水)、16日(木)
252名参加

キャリア支援部門

③ グループディスカッション実践練習講座

2月24日(金) 17名参加

④ エントリーシート練習記入講座

2月24日(金) 41名参加

3月：① 集団面接実践練習講座

3月16日(木)、21日(火)、28日(火) ※予定
34名参加

② グループディスカッション実践練習講座

3月16日(木)、21日(火)、28日(火) ※予定
31名参加

【ジョブシャドウ事後報告会】

10月29日(土) GC 1 大講義室

ジョブシャドウ参加学生、受入事業所が参加して報告会を開催。参加者60名



【事業所見学バスツアーの実施】

2月24日(金) 二戸市内の事業所3ヶ所を見学

見学先：二戸市役所、(株)南部美人、(株)阿部繁隆商店。

参加学生25名



【キャリア教育の具現化として理工学部の実習ツアーを追加実施】

① 2月13日(月)

自動車関連企業(トヨタ紡織東北(株)、ハイプラ化成(株)、ケミコン岩手(株))を見学

参加学生17名

② 2月15日(水)

半導体関連産業((株)多加良製作所、リコーインダストリアルソリューションズ(株)、(株)ジャパンセミコンダクター)を見学

参加学生20名

③ 2月17日(金)

ものづくり産業(アイシン・コムクルーズ(株)、(株)ニュートン、(有)サワ)を見学

参加学生29名

【合同就職説明会】

3月1日(水)～3日(金)

中央学生食堂で開催

参加事業所：327

参加学生延べ4882名



キャリア教育授業

授業科目：キャリアを考える

履修生69名

平成29年度採用活動スケジュール

採用広報活動開始：3月1日

採用選考活動開始：6月1日

採用内定日：10月1日

入学前教育実施小委員会

専任教員 江本 理恵

入学前教育

教育推進機構(旧・大学教育総合センター)では、平成18年度に入学前教育の試行を行い、平成19年度には運営委員会に入学前教育実施小委員会を設置し、全学的体制で入学前教育を実施しています。これは、AO、推薦入試など、従来の「入試」以外の方法で早い時期に入学が決まる生徒が増えてきたことに伴い、それらの生徒の(合格後、実際に入学するまでに3、4ヶ月あることによる)学習意欲の低下、学力の不足といった問題が指摘されていることを受け、生徒の学習意欲の低下、学力の不足を補うための取り組みの1つとして検討し、実施しているものです。平成19年度の提出率は約65%でしたが、その後、各学部のご協力もいただき、平成24年度には読書レポートの提出率100%、平成28年度も99.6%となりました。

この読書レポートは、いわゆる「読書感想文」ではなく、文献を読んで、指示に従って正確に文書を作成する活動です。これは、「文書作成体験」を通して、どの学部の学生にも必要となる「文書作成能力」に気がついてもらうことを目的としています。社会に出てから作成する「文書」には目的があり、相手に読んで理解してもらう必要があります。まずは「指定通りに文書を作成する」ことを目指したいと考えています。

この「読書レポート」については、高校の先生方からも「大学の学習のほんのわずかな先取りの働きかけ」として、比較的好意的に受け取ってもらっています。さらに、対象者に実施したアンケートによると、「『読書レポート』は大学の学びを知る上で役立ちましたか?」という問いに対して、「a.大いに役立った」「b.役立つものがあつた」の回答が97%を占める(平成27年度)など、生徒にも好評なようです。

また、数学や英語に関するe-Learningも利用できる環境を整えています。数学は、大学で必要となる、という視点から、高校までの数学範囲を教材化した「もう一度数学」、英語はアルク社のネットアカデミー2の「スタンダードコース」と「TOEIC(R)テスト演習2000コース」を提供しています。理工学部では、「もう一度数学」と「これでどうだっ!英文法」というe-Learning教材を必修としており、入学式前のクラス分けTOEICテストの平均点が上がるなどの効果がでてきています。

入学前教育では、あくまでも「大学の学習のほんのわずかな先取りの働きかけ」を大切に、今後も高校の学習範囲に過度に踏み込むことなく、生徒たちが来たるべき大学生活に思いをはせられるような取り組みとしていきたいと考えています。

《平成28年度 入学前教育 読書レポート提出状況一覧》

2017/02/15時点データ
教育推進機構入学前教育実施小委員会

課題図書		人文社会科学部		教育学部	理工学部		農	合計	学部 レポート配分数
		推薦	AO		推薦	AO			
人文社会科学部	データはウソをつく	13	2	5	17	1	1	39	12
	歴史を哲学する	8		1				9	9
	里海資本論	4	1	2	3	1	8	19	12
	憲法主義	10		2	3			15	12
教育学部	民主主義という不思議な仕組み	5	1	9				15	15
	美しく怒れ	7	1	16	2	3		29	20
	バナッハ・タルスキーのパラドックス	1		1	1			3	3
理工学部	日本人になった祖先たち			3	5		1	9	9
	炭素文明論	1	1	1	16	1		20	20
	南海トラフ巨大地震	1		1	12	4		18	18
農学部	農業と人間	1			1		7	9	9
	科学者という仕事			1	10			11	6
	キリマンジャロの雪が消えていく	4	1	1	4		12	22	9
	科学は誰のものか			1	4		1	6	6
合計(通)		55	7	44	78	10	30	224	160
対象人数(人)		55	8	44	77	10	30	224	
提出人数(人)		55	7	44	77	10	30	223	
提出率		100%	88%	100%	100%	100%	100%	99.6%	

※2通提出した生徒が理工学部に1名。

※教養養育センターにて、以下の読書レポートを担当。

データはウソをつく(27通)、里海資本論(7通)、憲法主義(3通)美しく怒れ(9通)、科学者という仕事(5通)、キリマンジャロの雪が消えていく(13通)

学修支援体制の整備に関する専門委員会

専任教員 江本 理恵

本専門委員会では、平成28年度に主に以下のような案件を議論しました。

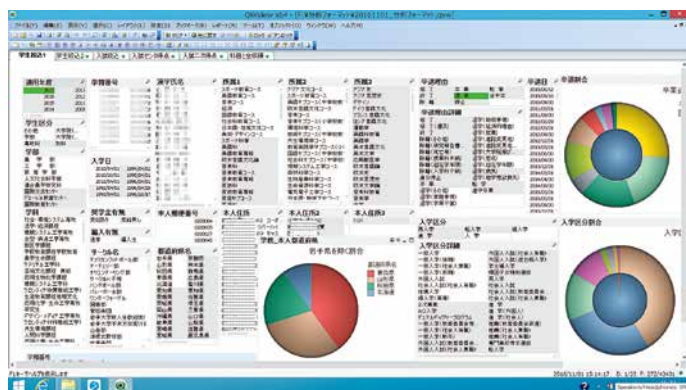
教学IRシステム

平成27年度に構築した教学IRシステムには、学務、入試、奨学金の受給状況等、すでにシステム化されたデータベースのデータを取り込んで（データベースをそのまま移行）います。平成28年度は、これらの取り込み済みのデータについて、学籍番号をキーとした紐付け作業を行いました。

この結果、入試区分毎の学生の追跡データの（成績の状況、卒業、留年、退学等）整理などを行うことができるようになりましたが、このような個人情報が含まれるデータの取扱ルールの策定が委員会の課題となりました。基本的に限られた人のみがアクセスできるデータとし、必要な場合は専門委員会を通して、個人情報が出ないように加工した上で提供する方針を定めました。そして、学部等には、積極的に情報を提供していくことも確認しました。

このような議論の結果、今年度は、入試区分別の卒業年次以降の学生の状況（卒業、留年、退学等）や入試区分別の在学生の成績等を集計したものを学部を提供することになりました。

○教学IRシステム：分析シート例



学修支援体制

アイフォリオの導入により、担任教員が早い時点で成績などの担当学生の学修状況を確認できるようになったことを鑑み、個別指導の必要な学生への対応を見直しました。

すでに4学部とも、各学年修了時の個別指導の必要な学生を抽出する一定の基準を決めていましたが、人文社会科学部の取り組みを見習い、1年次学生に対しては、前期修了時点で、学部単位で何らかの基準を決めて個別に指導することを検討し、4学部すべてで取り組んでいくことを確認しました。一般的に、問題を抱えがちな学生への対応は、早い時期の方が良いと言われており、前進できたかと思えます。

また、学修支援室の更なる活用についても検討を開始しました。



GPA

GPAに関しては、教育推進連携部門でも議論はされていましたが、GPA活用の目的によって、より適切な算出方法が変わることから、本委員会では学修支援の観点からの活用及び算出方法等を検討し、必要に応じて機構会議に提案することを予定しています。

実際、GPAについて情報を収集していると、GPAの本場アメリカでは、より学修支援に適した形にGPAが進化していることがわかってきました。中期計画にも「国際通用性の高いGPA」という文言があるように、岩手大学のGPAは、学修支援に適した形が望ましいのではないかと議論を進めています。



学修支援室

専任教員 織田 健志

学修支援室（Learning Support Room）は、岩手大学のすべての学生が、自らの「学び」を充実させ、卒業まで学業を十分修められるよう、「学び」を支援する目的で平成25年度に設置されました。現在は、理系科目の学修内容に詳しい退職教員4名と英語の専任教員2名により運営されています。



平成28年度は、4月11日～8月9日（前期）、及び9月26日～2月10日（後期）の平日16時30分～19時、図書館2階のラーニング・サポート・デスクに担当者が常駐し、数学・化学・物理・英語に関する学修相談を行いました。

平成29年度には、新たな取組もスタートします。まず第一に、履修申告期間における学修相談を実施します。履修に関する相談に乗りながら、大学入学後の学修面での悩みや不安について担当者がサポートします。

学び方を相談してみよう！

みんな、高校の時に数学を勉強したらしいけど、私、勉強しない……

このままだったらと大学生活を送っていいのだろうか？

えっ！「物理」って必要なの？ うっそぉ!?

授業の内容がまったくわからない……

「レポート」の書き方がわからない！

いつか留学してみたいなあ。

この問題、どうやって解くんだろう？

「自分で勉強しなさい」って、どうすればいいの？

岩手大学では、学生のみなさんの「学び」を支援するために、学修支援室（Learning Support Room）を設置しています。学び方について相談してみたい学生さん、図書館の2Fのサポートデスク（Learning Support Desk）にてお待ちしております。

そして第二に、試験前の学修支援体制を強化します。これまでも定期試験に関する相談はあったのですが、授業時間と重なって来室しにくいという状況がありました。そこで来年度には、大学での初めての試験を控えた1年生のために、7月中旬の1週間程度、開室時間の延長や変更を行います。

もちろん、従来の教科ごとの学修相談も継続していきます。今後の学修支援室での取組にご期待ください。

～ 相談内容の一例～レスポンスカードから～

- ・ 積分定数について前も聞いたのですが、もう一度確認させていただきました。答えが合わない問についての説明も聞きました。
- ・ 電子配置図を書けるようになりました。
- ・ Pka、物質収支、電荷平衡について理解できたと思うので、テストに活かしてがんばります。
- ・ 英語skill upについて（学会等）speaking, writing

アイフォリオ

専任教員 江本 理恵

Ist Folio(アイフォリオ)

前回のエルディオで紹介した通り、平成28年7月から、平成28年度入学の学生からを対象としたポートフォリオシステム「Ist Folio(アイフォリオ)」が稼働しています。平成28年の9月末の時点で、対象学生の自己評価等の実施率は8割を超えており、まずまずのスタートを切ることができたと思います。

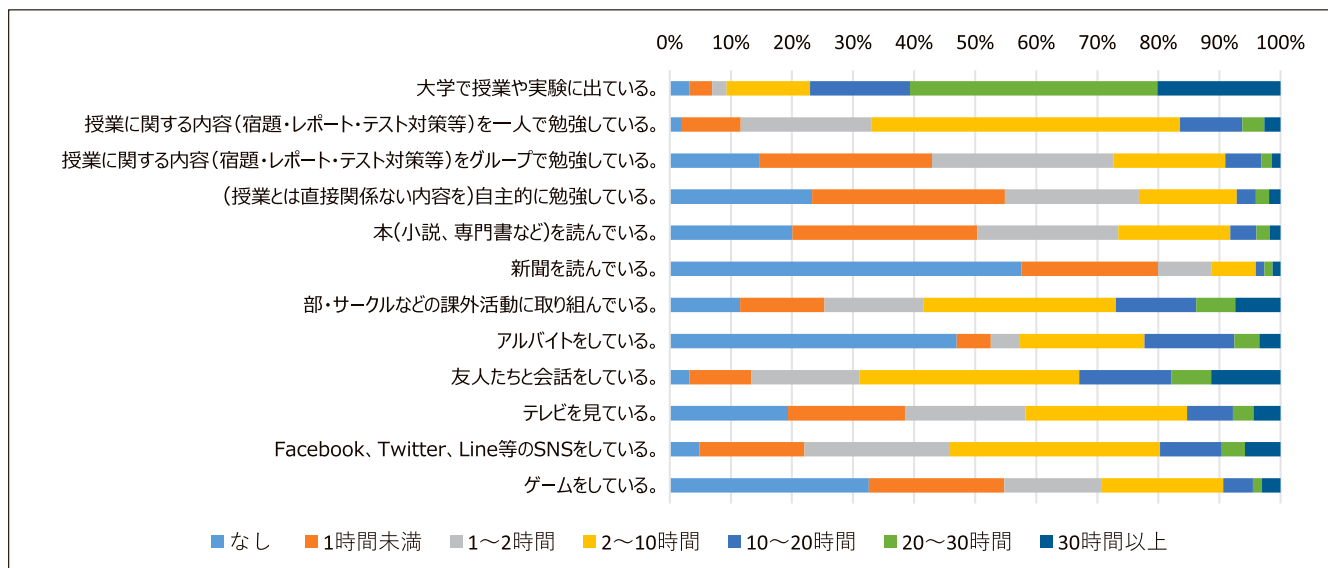
アイフォリオは学生が自身の学びを蓄積し、可視化

するためのシステムですが、同時に、教員が、担当の教育プログラムの状況を確認し、担当の学生の学びの状況(単位の取得状況を含む)を確認するためのシステムでもあります。ぜひ、このアイフォリオを学生への指導に活用してください。

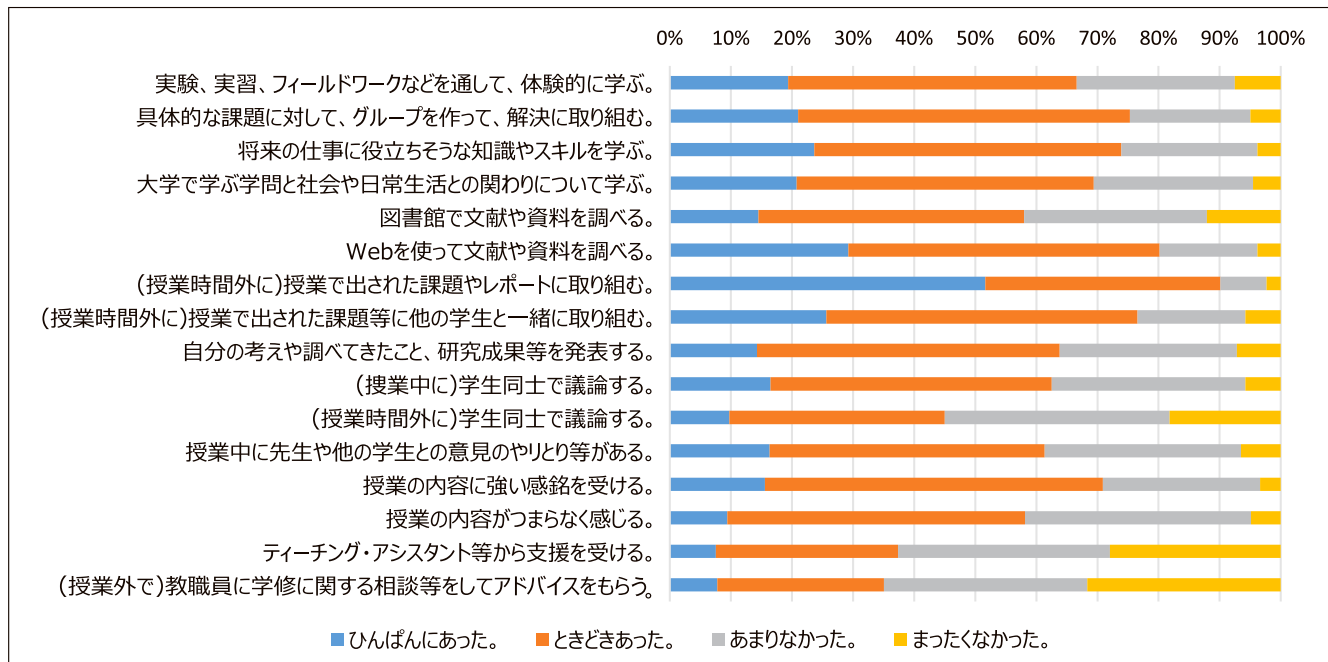
また、将来的には、アイフォリオで収集しているデータを教学IRシステムに取り込み、入試区分や成績との関係性の分析も予定しています。

【平成28年度 入学学生対象調査結果】 ○実施期間：平成28年7月～9月 ○回答者：882名(対象学生数：1079)：81.7%

■学期中の1週間の時間の使い方



■学修体験



機構会議、センター会議及部門会議名簿

教育推進機構会議委員名簿

(平成28年9月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
機構長	丸 山 仁	理事(教育・学生担当)・副学長
副機構長 教養教育センター長	松 林 城 弘	人文社会科学部
副機構長 グローバル教育センター長	藪 敏 裕	教育学部
教育推進連携部門長	松 川 倫 明	理工学部
学生支援部門長	名古屋 恒 彦	教育学部
キャリア支援部門長	関 野 登	農学部
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
	松 岡 洋 子	教育推進機構
	尾 中 夏 美	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
	Anders Carlqvist	教育推進機構
	早 坂 浩 志	教育推進機構
	平 井 華 代	教育推進機構
	富 永 陽 子	教育推進機構
	主 濱 祐 二	教育推進機構
	織 田 健 志	教育推進機構
各学部の副学部長又は評議員	宮 本 ともみ	人文社会科学部
	菊 地 洋 一	教育学部
	吉 澤 正 人	理工学部
	倉 島 栄 一	農学部
各学部の教務(学務)委員会 委員長	中 村 安 宏	人文社会科学部
	犬 塚 博 彦	教育学部
	嶋 田 和 明	理工学部
	小藤田 久 義	農学部
学務部長	八 田 弘	学務部

教養教育センター会議委員名簿

(平成28年9月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
センター長	松 林 城 弘	人文社会科学部
副センター長／兼務教員	齋 藤 博 次	人文社会科学部
科目委員会委員長 兼務教員	齋 藤 博 次	外国語科目委員会
	澤 村 省 逸	健康・スポーツ科目委員会
	木 村 彰 男	情報科目委員会
	開 龍 美	文化科目委員会
	藤 本 幸 二	社会科目委員会
	西 崎 滋	自然科目委員会
	中 西 良 樹	科学技術科目委員会
	中 澤 廣	環境科目委員会
	中 島 清 隆	地域科目委員会
	脇 野 博	教育推進機構
専任教員	尾 中 夏 美	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
	富 永 陽 子	教育推進機構
	主 濱 祐 二	教育推進機構
	織 田 健 志	教育推進機構
	後 藤 尚 人	人文社会科学部
各学部の教務(学務)委員会 委員長又は副委員長	遠 藤 匡 俊	教育学部
	嶋 田 和 明	理工学部
	小 出 章 二	農学部
	長 代 健 児	学務部
教務企画課長		

機構会議、センター会議及部門会議名簿

グローバル教育センター会議委員名簿

(平成28年9月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
センター長	藪 敏 裕	教育学部
副センター長／専任教員	松 岡 洋 子	教育推進機構
専任教員	尾 中 夏 美	教育推進機構
	Anders Carlqvist	教育推進機構
	平 井 華 代	教育推進機構
	主 濱 祐 二	教育推進機構
	織 田 健 志	教育推進機構
各学部の国際交流委員会委員 又は教務(学務)委員会委員から 選出された教員	白 倉 孝 行	人文社会科学部
	本 田 卓 人	教育学部
	吉 澤 正 人	理工学部
国際課長	木 崎 景 一 郎	農学部
	斎 藤 幸 代	学務部

教育推進連携部門会議委員名簿

(平成28年5月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	松 川 倫 明	理工学部
副部門長／兼務教員	阿久津 洋 巳	教育学部
専任教員	脇 野 博 子	教育推進機構
	松 岡 洋 子	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
	富 永 陽 子	教育推進機構
各学部の教務関係委員会から 選出された教員	後 藤 尚 人	人文社会科学部
	天 木 桂 子	教育学部
	嶋 田 和 明	理工学部
各学部のFD又は教育評価を 担当する委員会から 選出された教員	山 下 哲 郎	農学部
	池 田 成 一	人文社会科学部
	川 口 明 子	教育学部
	大 坊 真 洋	理工学部
学務課長	國 崎 貴 嗣	農学部
教務企画課長	山 崎 義 夫	学務部
	長 代 健 児	学務部

学生支援部門会議委員名簿

(平成28年9月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	名古屋 恒 彦	教育学部
専任教員	早 坂 浩 志	教育推進機構
	平 井 華 代	教育推進機構
	織 田 健 志	教育推進機構
	齋 藤 伸 治	人文社会科学部
兼務教員	宮 川 洋 一	教育学部
	西 村 文 仁	理工学部
	松 原 和 衛	農学部
	菊 池 孝 美	人文社会科学部
各学部から選出された教員	鎌 田 安 久	教育学部
	海 田 輝 之	理工学部
	落 合 謙 爾	農学部
学生支援課長	今 野 和 男	学務部

キャリア支援部門会議委員名簿

(平成28年5月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	関 野 登 博	農学部
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
	Anders Carlqvist	教育推進機構
兼務教員	樋 口 知 志	人文社会科学部
	重 松 公 司	教育学部
	水 野 雅 裕	理工学部
	武 田 純 一	農学部
キャリア支援課長	佐 藤 祐 一	学務部
部門長が必要と認めた者	猪 又 優	COC 特任准教授

erudio26

2017年3月発行

国立大学法人 岩手大学 教育推進機構

Iwate University : Center for Teaching, Learning and Career Development
〒020-8550岩手県盛岡市上田3丁目18-34

■ 教養教育センター	tel.019-621-6091
■ グローバル教育センター	tel.019-621-6553
■ 教育推進連携部門	tel.019-621-6091
■ 学生支援部門（学生支援課）	tel.019-621-6058
■ キャリア支援部門（キャリア支援課）	tel.019-621-6059

■ 部門共通 **fax.019-621-6928**
電子メール uec@iwate-u.ac.jp
Webサイト <http://uec.iwate-u.ac.jp/>

